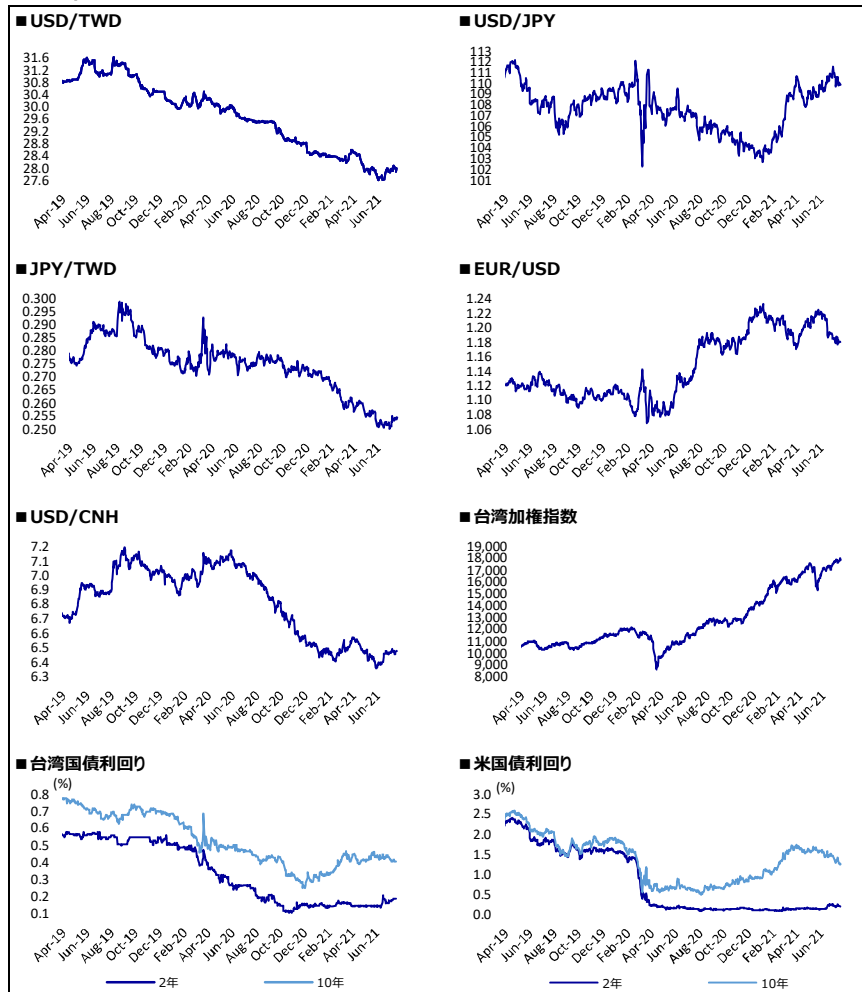


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初7/12は28.030でオープン後、台湾株の上昇につられ28台を割ったものの、戻される展開に。7/13も台湾株は買われ、台湾加権指数が最高値を更新すると台湾ドルは買われたが、台湾株の上げ幅が縮小すると27.98付近で推移。7/14も台湾株買いからの台湾ドル買いが入ったものの、外国人投資家のドル/台湾ドルの取引は売り買い交錯し、27.99付近での推移が続いた。7/15は前日のパウエルFRB議長の議会証言を受けドルが全面安となる中、27.98付近で推移していたが、台湾加権指数が再度最高値を更新する中、海外からの資金流入が拡大し、台湾ドルが買われ一時27.871まで下落。7/16は、前日に米株式市場でハイテク銘柄が売られたこともあり、高値圏で推移していた台湾株に売りが入り、台湾ドルも売られる展開に。ドル/台湾ドルは28台に戻され、最終的には先週比0.3%ドル安台湾ドル高の28.005で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は478.3億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初7/12は110.18でオープン後、110円台前半で推移していたが、110円を割ってもすぐに110円台に戻す底堅い展開に。その後、米長期金利の上昇につられて110.40まで上昇するも特段材料もなく、翌日に米CPIの発表を控え小動きに。7/13は米6月CPIの結果が市場予想を上回り、インフレ懸念からドル買いが強まり、110円台半ばまで上昇。その後は米長期金利が低下したものの、米30年債の入札が不冴えな結果となり、再び上昇する動きに連れて、ドル/円も110円台前半まで軟化した。7/14はパウエルFRB議長の議会証言を控え動意に乏しく、110円台半ばの狭いレンジで推移していたが、議会証言がハト派な内容となり、109円台後半に下落。7/15は前日のドル安の流れを引き継ぎ109.72まで下落したが、ドル売り一巡後は110円台に戻した。7/16は日銀の金融政策決定会合で金融緩和を維持したものの、影響は限定的で110円台前半で推移。その後も米経済指標が強弱混合であったことから、レンジは抜けきれず、最終的に先週比0.1%ドル安円高の110.08で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.850-28.100
先週は好調な台湾株につられて台湾ドルが買われやすい状況となったが、高値圏で推移する台湾株については利益確定の動きに注意したい。一方、7月も後半に入っており、ドル/台湾ドルが28台では輸出企業のドル売りも想定されることからレンジでの推移を見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：109.40-110.70
米長期金利が低い水準で推移しており、上値が重い状況は続くであろう。また、今週後半は東京オリンピック開催の前に日本が休場となることもあり、参加者も少なく、動意に欠く展開となるであろう。

今週の予定

7/19 (MON)	
7/20 (TUE)	米6月住宅着工・許可件数
7/21 (WED)	
7/22 (THU)	日本休場、ECB政策理事会、米6月中古住宅販売件数
7/23 (FRI)	日本休場

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。